

## 2021年度「学習時間と学習経験に関するアンケート調査」(1～4年生対象)

## 分析結果報告

## 【回答者数内訳】

学年		学科														合計
		日文	歴文	心理	福祉	現代	初教	環境	管理	健康	安全	ビジ	会フ	英コミ	国際	
1	人数	75	86	86	80	59	69	136	86	38	59	97	51	113	94	1129
	回答率(学科内%)	67.6%	87.8%	79.6%	94.1%	58.4%	59.5%	63.8%	94.5%	51.4%	78.7%	89.8%	79.7%	67.7%	82.5%	74.0%
2	人数	68	41	78	56	28	73	86	51	30	52	77	29	112	71	852
	回答率(学科内%)	57.1%	40.6%	82.1%	73.7%	26.9%	64.0%	41.0%	69.9%	39.0%	61.9%	72.6%	46.8%	54.6%	70.3%	55.8%
3	人数	55	71	69	66	39	70	69	55	14	67	71	42	94	38	820
	回答率(学科内%)	44.7%	74.0%	62.2%	88.0%	39.0%	62.5%	35.0%	87.3%	21.5%	78.8%	67.6%	57.5%	52.5%	41.3%	55.6%
4	人数	54	63	47	86	29	69	46	56	21	71	66	43	111	81	843
	回答率(学科内%)	43.9%	54.3%	43.5%	90.5%	24.6%	58.5%	21.3%	72.7%	26.9%	87.7%	55.9%	69.4%	50.0%	60.0%	50.6%

## 【回答者の本学志望順位】

列ごとに比較した際、回答割合が統計学的に5%水準で有意に多かったセルをピンク色、有意に少なかったセルを水色で示す。

		志望順位				合計
		第1志望	第2志望	第3志望	第4志望以降	
学年 1	人数	645	188	114	169	1116
	%	57.8%	16.8%	10.2%	15.1%	100.0%
2	人数	461	151	88	148	848
	%	54.4%	17.8%	10.4%	17.5%	100.0%
3	人数	457	126	65	166	814
	%	56.1%	15.5%	8.0%	20.4%	100.0%
4	人数	418	115	90	209	832
	%	50.2%	13.8%	10.8%	25.1%	100.0%
合計	人数	1981	580	357	692	3610
	%	54.9%	16.1%	9.9%	19.2%	100.0%

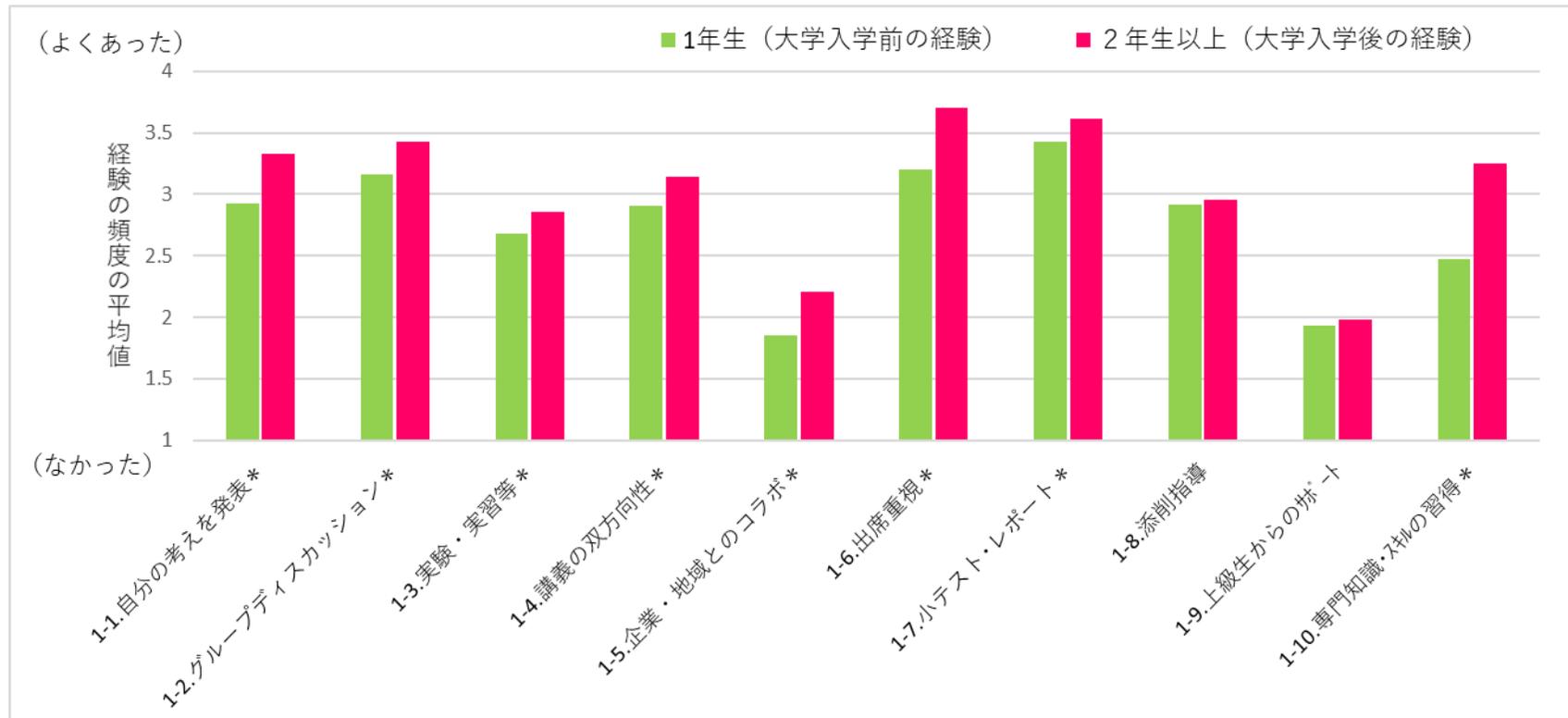
★1年生は他の学年に比べ、第1志望の学生の割合が多めであり、第4志望以降の学生の割合が少なかった。

なお、昨年度の調査結果と比較すると、第1志望で入学した1年生が1%増加し、第4志望以降で入学した1年生が2.2%減少した。

## 【授業における経験の頻度 1】

1年生(大学入学前の経験)と2年生以上(大学入学後の経験)で比較した。縦軸は、「よくあった」を4点、「時々あった」を3点、「あまりなかった」を2点、「なかった」を1点とした場合の各群の平均値であり、得点が高いほど、授業における経験の頻度が高いことを示している。

(1年生と2年生以上の回答の間に、5%水準で統計学的に有意差が認められた項目に\*を記載)

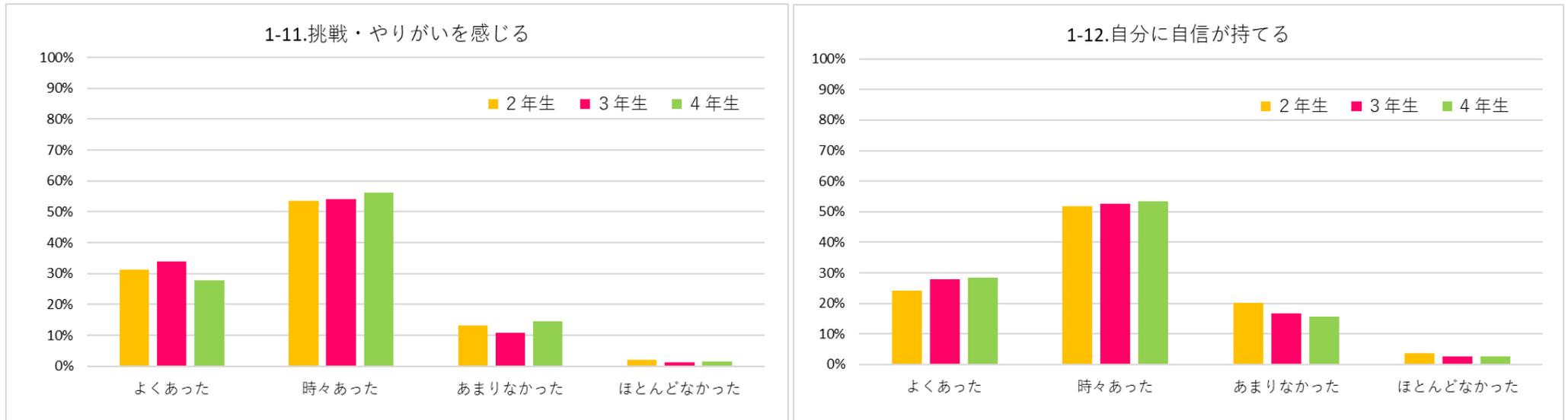


★「1-8.添削指導」と「1-9.上級生からのサポート」以外の項目で、いずれも大学入学前(1年生)よりも、大学入学後(2年生以上)の方が、経験している頻度が高かった。特に、「1-1.自分の考えを発表」「1-6.出席重視」「1-10.専門知識・スキルの習得」において、差が顕著であった(効果量：大または中)。

なお、「1-9.上級生からのサポート」以外は、全体的に昨年度よりも平均値が0.1~0.2程度高くなった。

## 【授業における経験の頻度2(2～4年生対象)】

「世界大学ランキング」に対応した2項目について回答の分布を示す。



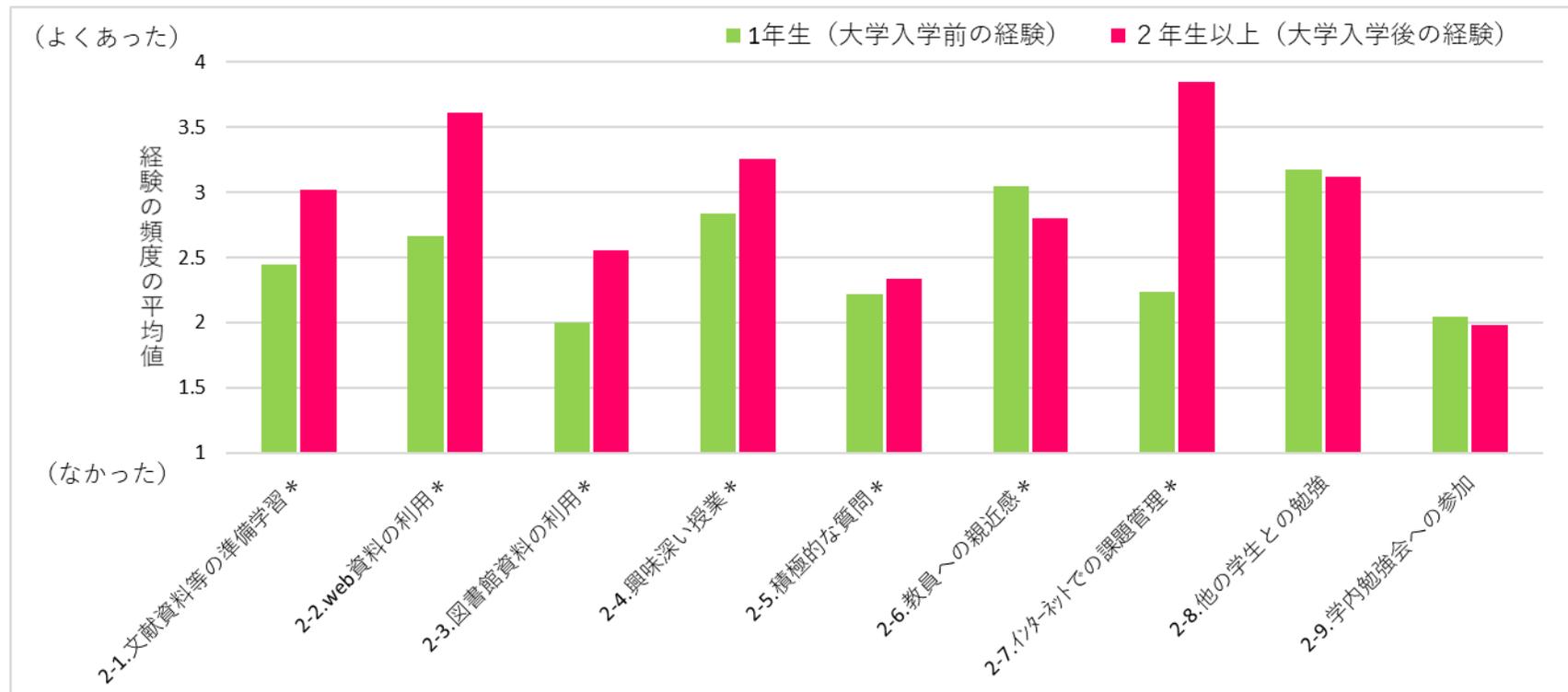
★約8割の2～4年生が、「1-11.授業内容や学び方において、挑戦・やりがいを感じる」経験や「1-12.学ぶことによって自分に自信が持てる」経験があった（「よくあった」+「時々あった」）と回答した。

なお、「よくあった」の割合は、「1-11.授業内容や学び方において、挑戦・やりがいを感じる」「1-12.学ぶことによって自分に自信が持てる」ともに3・4年生で昨年度より7～10%程度高くなった。

### 【授業および授業外での取り組みの経験頻度】

1年生(大学入学前の経験)と2年生以上(大学入学後の経験)で比較した。縦軸は、「よくあった」を4点、「時々あった」を3点、「あまりなかった」を2点、「なかった」を1点とした場合の各群の平均値であり、得点が高いほど、授業における経験の頻度が高いことを示している。

(1年生と2年生以上の回答の間に、5%水準で統計学的に有意差が認められた項目に\*を記載)



★ほとんどの項目で、大学入学前(1年生)よりも、大学入学後(2年生以上)の方が、経験している頻度が高かった。特に、「3-1.文献資料等の準備学習」「3-2.web資料の利用」「3-3.図書館資料の利用」「3-4.興味深い授業」「3-7.インターネットでの課題管理」において、差が顕著であった(効果量：大または中)。ただし、「2-6.教員への親近感」は、大学入学前(1年生)の方が大学入学後(2年生以上)よりも高く、「2-8.他の学生との勉強」と「2-9.学内勉強会への参加」には有意差が認められなかった。また、2年生以上で「2-2.web資料の利用」と「2-7.インターネットでの課題管理」が、昨年度と同様に3.5を越えて高かった。

【留学経験】列ごとに比較した際、回答割合が統計学的に5%水準で有意に多かったセルをピンク色、有意に少なかったセルを水色で示す。  
(ただし、1年生は大学入学前の経験、2～4年生は大学入学後の経験)

		2-10. 留学経験			
		留学経験なし	半年未満	半年以上	合計
学年 1	人数	826	276	26	1128
	%	73.2%	24.5%	2.3%	100.0%
2	人数	721	111	13	845
	%	85.3%	13.1%	1.5%	100.0%
3	人数	659	141	17	817
	%	80.7%	17.3%	2.1%	100.0%
4	人数	419	277	141	837
	%	50.1%	33.1%	16.8%	100.0%
合計	人数	2625	805	197	3627
	%	72.4%	22.2%	5.4%	100.0%

★1年生(大学入学前)と2・3年生(大学入学後)に比べ、4年生(大学入学後)の方が、留学経験が多かった。特に半年以上の留学経験が4年生(大学入学後)で15%以上と多かった。1～3年生で極端に少ないのは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響と考えられる。

ただし、半年未満の留学経験は2・3年生(大学入学後)に比べ、1年生(大学入学前)の方が多かった。

【留学経験】列ごとに比較した際、回答割合が統計学的に5%水準で有意に多かったセルをピンク色、有意に少なかったセルを水色で示す。  
(ただし、1年生は大学入学前の経験、2～4年生は大学入学後の経験)

		2-11. 海外旅行経験			
		0回	1回	2回以上	合計
学年 1	人数	406	298	417	1121
	%	36.2%	26.6%	37.2%	100.0%
2	人数	368	168	301	837
	%	44.0%	20.1%	36.0%	100.0%
3	人数	304	210	300	814
	%	37.3%	25.8%	36.9%	100.0%
4	人数	218	179	428	825
	%	26.4%	21.7%	51.9%	100.0%
合計	人数	1296	855	1446	3597
	%	36.0%	23.8%	40.2%	100.0%

★2回以上の海外旅行経験は、1年生(大学入学前)と2・3年生(大学入学後)に比べ、4年生(大学入学後)の方が多かった。4年生では半数以上が2回以上の海外旅行を経験していた。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、1～3年生における2回以上の海外旅行経験者の割合が4年生よりも少なくなったと考えられる。

### 【普段の(期末試験時は除く)授業外学習時間】

列ごとに比較した際、回答割合が統計学的に5%水準で有意に多かったセルをピンク色、有意に少なかったセルを水色で示す。

		普段の学習時間(1日平均)			
		1時間未満	1時間以上 3時間未満	3時間以上	合計
学年 1	人数	289	643	197	1129
	%	25.6%	57.0%	17.4%	100.0%
2	人数	183	458	211	852
	%	21.5%	53.8%	24.8%	100.0%
3	人数	323	360	137	820
	%	39.4%	43.9%	16.7%	100.0%
4	人数	501	270	71	842
	%	59.5%	32.1%	8.4%	100.0%
合計	人数	1296	1731	616	3643
	%	35.6%	47.5%	16.9%	100.0%

★普段、授業時間外に1日1時間以上学習する学生は、2年生で約8割、1年生で7割強、3年生で約6割、4年生で約4割であった。

昨年度は、1年生で9割弱、2・3年生で約6割、4年生で5割弱という結果であったため、1年生と4年生の割合が減少した。特に1年生では1割程度減少した。しかし、2年生と3年生では、昨年度の学習習慣がある程度定着していると考えられる。

なお、一昨年度(2019年度)の調査によれば、1年生で約4割、4年生で約3割となっていたことから、授業外学習時間は昨年度(2020年度)から増加し、現在も一昨年度より多いまま維持されている。

### 【期末試験時の授業外学習時間】

列ごとに比較した際、回答割合が統計学的に5%水準で有意に多かったセルをピンク色、有意に少なかったセルを水色で示す。

		期末試験時の学修時間(1日平均)			
		1時間未満	1時間以上 3時間未満	3時間以上	合計
学年 1	人数	205	516	408	1129
	%	18.2%	45.7%	36.1%	100.0%
2	人数	131	338	383	852
	%	15.4%	39.7%	45.0%	100.0%
3	人数	151	334	335	820
	%	18.4%	40.7%	40.9%	100.0%
4	人数	250	403	189	842
	%	29.7%	47.9%	22.4%	100.0%
合計	人数	737	1591	1315	3643
	%	20.2%	43.7%	36.1%	100.0%

★期末試験時には、1日1時間以上学習する者が、どの学年においても7～8割みられた。

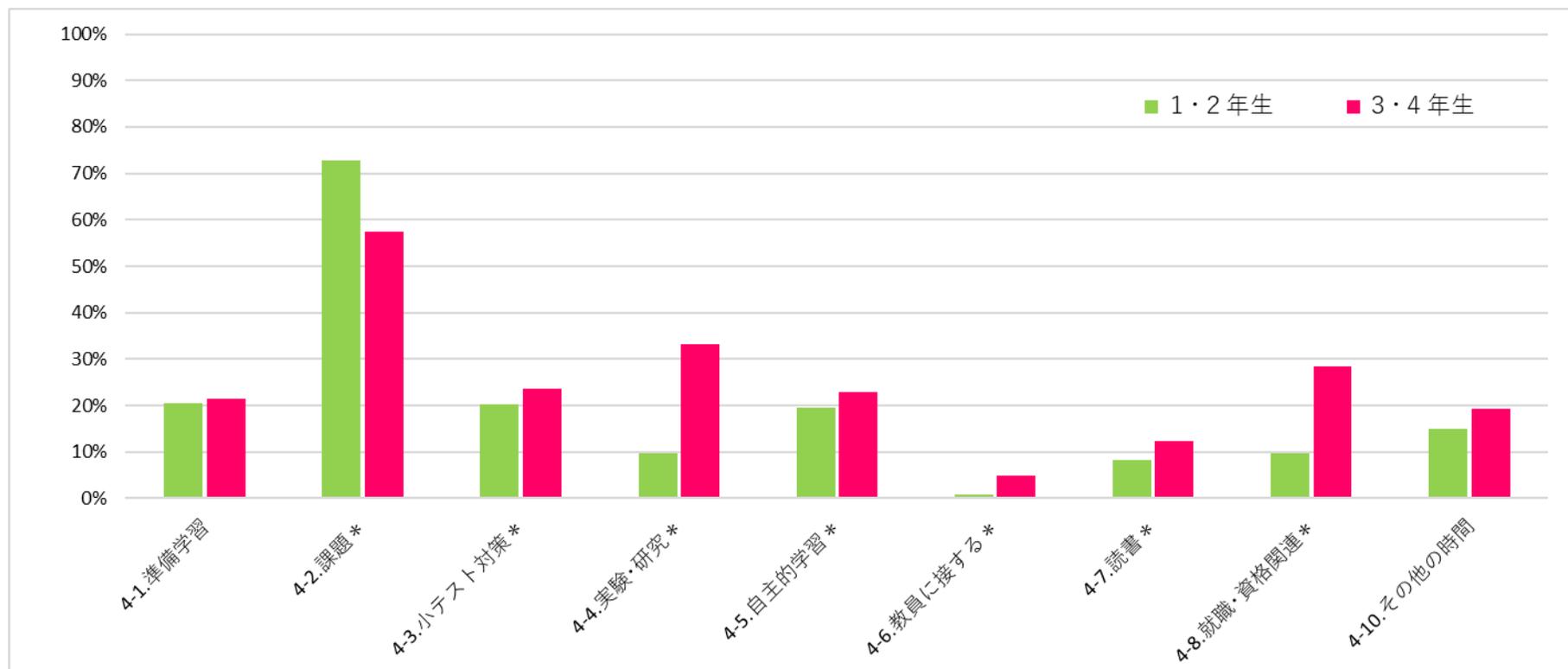
また、学年差を見ると、「3時間以上」の回答は2・3年生で多く、4年生では相対的に少なかった。昨年度の調査では1・2年生が4割から5割弱と多かったが、今年度も2・3年生が同様の割合で多かったことから、学習習慣がある程度定着していると考えられる。

なお、一昨年度(2019年度)の調査では、「3時間以上」と回答したのは1年生・4年生ともに約2割であったことから、4年生以外は2019年度よりも2割程度多くなっている。

## 【普段の授業外学習時間の内訳】

1・2年生と3・4年生で比較した。縦軸は、1日の平均学習時間を「1時間以上」と回答した者の割合を示す。

(1・2年生と3・4年生の回答の間に、5%水準で統計学的に有意差が認められた項目に\*を記載)

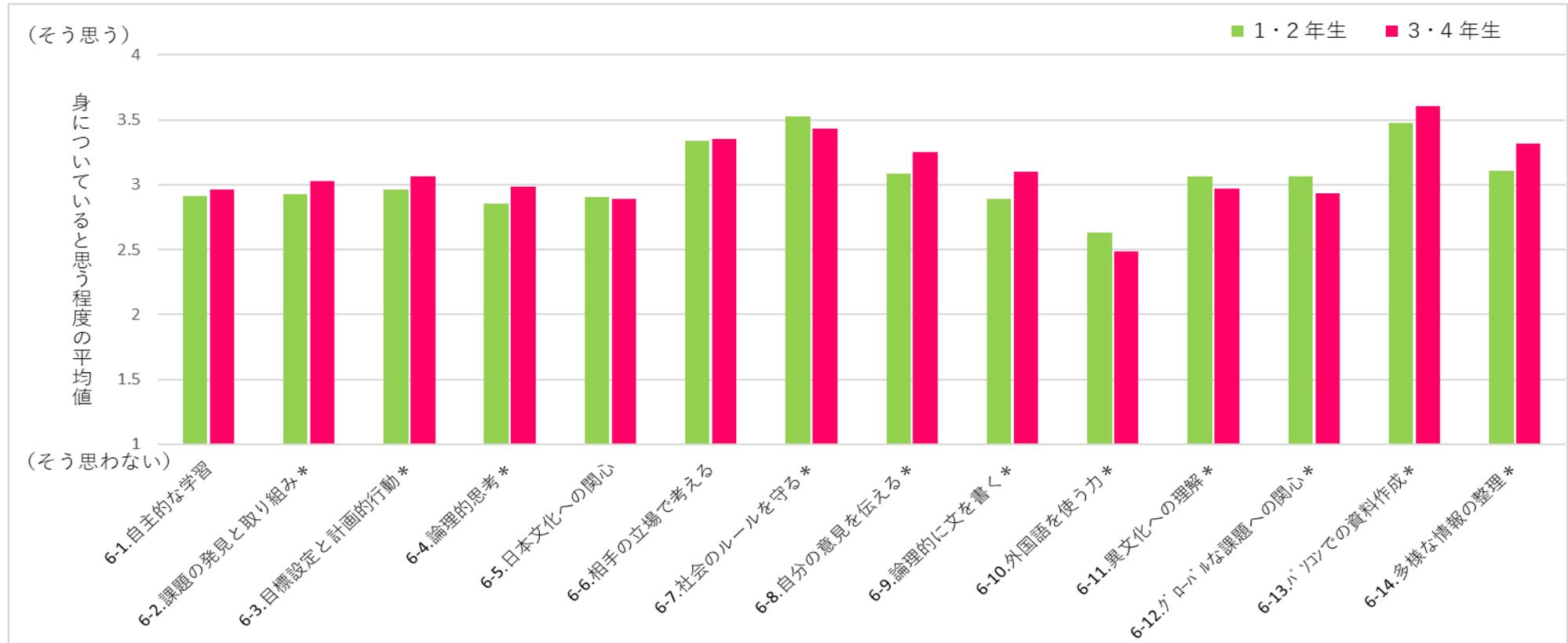


★1・2年生の授業外での学習は、おもに「4-2.課題」の実施であるのに対し、3・4年生では、「4-2.課題」の割合は1・2年生よりも相対的に減少し、「4-4.実験・研究」「4-8.就職・資格関連」「4-3.小テスト対策」「4-5.自主的学習」「4-7.読書」「4-6.教員に接する」に、1・2年生よりも時間が費やされていた。3・4年生になると主体的な学習の幅が広がることがうかがえた。「4-10.その他の時間」の具体例としては、語学の勉強やプロジェクト活動のほか、資格取得のための勉強などが挙げられた。なお、全体的に昨年度とほぼ同様の結果であったが、3・4年生で「4-7.読書」の時間が昨年度より5%程度増加し、1・2年生との間に有意差が認められた。

## 【現在身についていると思うか】

1・2年生と3・4年生で比較した。縦軸は、「そう思う」を4点、「ややそう思う」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「そう思わない」を1点とした場合の各群の平均値であり、得点が高いほど、現在身についていると思う程度が高いことを示している。

(1・2年生と3・4年生の回答の間に、5%水準で統計学的に有意差が認められた項目に\*を記載)

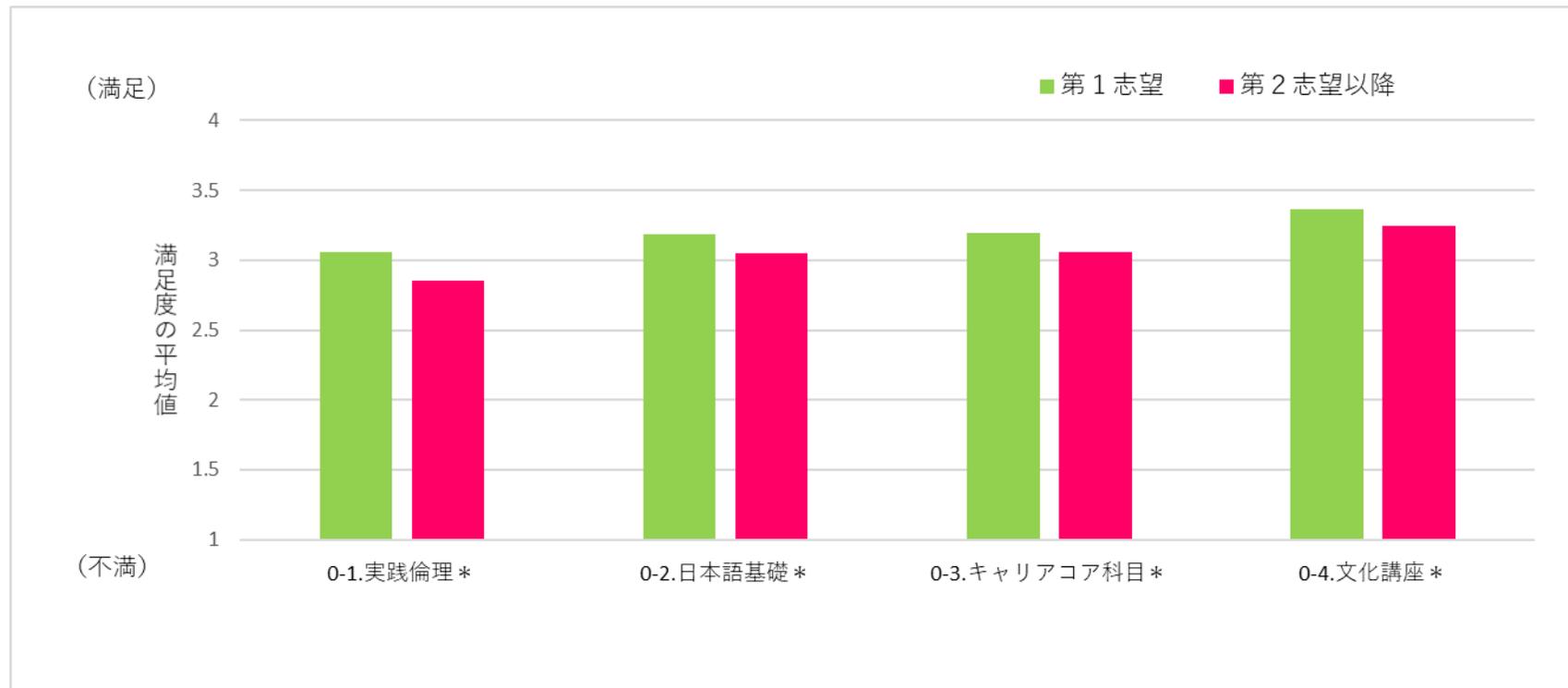


★半数の項目で、1・2年生よりも3・4年生の方が、身についていると思う程度が高かった。具体的には、「6-13.パソコンでの資料作成」「6-14.多様な情報の整理」といった情報リテラシーに関わる力、「6-2.課題の発見と取り組み」「6-3.目標設定と計画的行動」「6-4.論理的思考」「6-8.自分の意見を伝える」「6-9.論理的に文を書く」といった社会人基礎力に関して、3・4年生の方が身についていると感じており、昨年度よりいずれも0.2程度高くなっていた。一方、「6-7.社会のルールを守る」「6-10.外国語を使う力」「6-11.異文化への理解」「6-12.グローバルな課題への関心」に関しては、1・2年生の方が身についていると感じていた。これら1・2年生の方が平均値の高い項目のほとんどで、昨年度より1・2年生の平均値が若干高くなり、有意差が認められた。ただし、有意差が認められた項目の全てでその差は大きくなかった(効果量は小またはほとんどなし)。なお、「6-1.自主的な学習」「6-5.日本文化への関心」「6-6.相手の立場で考える」に有意差は認められなかった。

### 【本学独自の教育課程についての満足度と志望順位との関連(2～4年生対象)】

第1志望で入学した者と第2志望以降で入学した者で比較した。縦軸は、「満足」を4点、「やや満足」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点とした場合の各群の平均値であり、得点が高いほど満足度が高いことを示している。

(第1志望で入学した者と第2志望以降で入学した者の回答の間に、5%水準で統計学的に有意差が認められた項目に\*を記載)



★本学独自の教育課程のいずれの科目においても、第1志望で入学した者の方が、第2志望以降で入学した者よりも満足度が高かった。しかし、効果量は小さいため、差はほとんどないといえる。また、いずれの群の平均値も3点前後であることから、第2志望以降で入学した者もどちらかといえば満足を感じることができていると考えられる。なお、昨年度に比べて全体的に平均値が0.3程度上昇しており、総じて満足度は上昇したと考えられる。